

遺跡の立地・概要

大坪遺跡は阿賀野川右岸の標高約13mの自然堤防上に立地します。東方には五頭山ごずがそびえ、これと遺跡を結ぶ直線上の西方やひこに弥彦山が見えます。国道49号安田バイパス建設工事に係り平成16年5月～12月にかけて発掘調査を行いました。調査の結果、平安時代中頃(9世紀末葉～10世紀初頭)と平安時代末頃～鎌倉時代(11～12世紀)を中心とする大規模な遺跡であることが分かりました。遺跡が所在する寺社地区は古くから神社仏閣が多く、明治時代の絵図には遺跡内に大山祇神社が記されています。大坪遺跡の東700mの丘陵上にはほぼ同時期の横峯経塚群(S55年:出土品一括県指定文化財)があります。



遺跡を西から望む(中央が調査区、上は五頭山麓)

おおやまずみ

遺 構

は じ き しょうせいこう

平安時代中頃の遺構は、土鍋や碗を焼いた土師器焼成遺構が5基見つかりました。平面形は長さ2m前後の隅丸方形で、深さは約10cmです。

平安時代末頃～鎌倉時代の遺構は調査区全域で確認され、掘立柱建物54棟、木棺墓3基・火葬墓1基、井戸24基、土坑93基、溝216条、柱穴2,610基などが見つかりました。さらに調査区東側では、12世紀から近代まで同じ位置を流れていたと考えられる大型溝も確認されました。

調査区北側では、長さ10mを超える大型掘立柱建物11棟を含む多数の掘立柱建物が見つかりました。大型建物S B4は長軸14.2m、短軸8.4mの東西に長い建物です。主屋は2間×3間の総柱で、周囲に庇ひさしが付きます。また、北側に長さ20mのL字状に曲がる回廊状の施設が附属する可能性が高いです。大型建物S B5は長軸12.8m、短軸9.4mの南北に長い建物です。主屋は2間×3間ですが、中心の柱穴3本が欠けており、三面に庇の付く可能性があります。これらの大型建物に方位を合わせて付随するように木棺墓2基が見つかり、漆器の碗や皿が出土しました。

さらに、調査区南側から北側に向かって蛇行する溝はS B4の手前で折れて東側に曲がっており、大型建物に附属する何らかの施設の可能性があります。井戸は素掘りのもので3か所にまとまって見つかりました。



大型掘立柱建物(右:SB4、左SB5)



木棺墓(2.4m×0.8m、右上隅で漆器碗出土)

一方、調査区南側では1辺2m前後の方形の竪穴状遺構が8基見つかりました。これは当時の住まいや貯蔵穴であったと考えられます。また、長さ1m前後の方形の火葬墓と見られるもののほか、多数の円形や楕円形の土坑がまとまって見つかりました。このうちの1基から銭貨7枚が出土していることから、これらの土坑は墓の可能性が高いと考えられます。しかし、調査区北側にあるような木棺墓や漆成品は出土しておらず、南北の差が認められます。



珠洲系陶器が出土した井戸(直径1m)



竪穴状遺構と土層断面(床に貼り土あり)

遺物

12世紀のものを中心とする土師器の碗・皿が多数出土しました。珠洲焼は片口鉢・甕・壺があり、12世紀後半ものが多く、13～14世紀のものも少量含まれます。ところが、井戸から出土した片口鉢(写真)は形や色は珠洲焼とほとんど変わりませんが、胎土中に大粒の砂礫を含んでおり、地元で焼かれた可能性が高いことが分かりました。輸入陶磁器では白磁の碗・皿・壺の破片が200片も出土しました。さらに、高麗青磁の梅瓶とみられる破片が1点出土しました。県内では3例目であり、東日本でも出土が稀で大変貴重なものと言えます。

まとめ

多数の大型掘立柱建物や高価な白磁や高麗青磁が出土した大坪遺跡は、館や寺院に関連する遺跡と考えられます。現在の阿賀野市の範囲とされる白河荘は1134年(長承3年)に成立し、大坪遺跡はまさにこの時期と重なります。九条兼実の日記である『玉葉』では城四郎長茂が白河荘の荘官で「白河御館」と呼ばれていました。この長茂の名が書かれた経石が出土したとされる横峯経塚の造営には、地理的に近い大坪遺跡が関係していた可能性が高いものと思われます。しかし、遺跡と城氏を直接結びつける遺物等は出土しておらず、今後の調査が期待されます。

(荒川隆史)



珠洲系陶器の片口鉢(高さ13.5cm)



白磁の碗・皿片(左上幅12.5cm)

(第12回遺跡発掘調査報告会資料から抜粋)

遺物展示 ④

あ が の かも ふけ こう 阿賀野市 鴨深甲遺跡

あ が の がわ し げんていぼう
阿賀野川右岸の自然堤防上に立地し、標高11.7mを測ります。中世を中心とした遺構・遺物が出土しました。主な遺構は掘立柱建物10棟、井戸18基、土坑37基、水田と推定される凹地遺構256基などです。掘立柱建物は3か所に散在し、これを中心に井戸、土坑、凹地遺構があります。遺物の中世陶磁器を主体とし、珠洲焼が多く見られました。また井戸からは水溜用に使用された大型曲物が多く出土しました。耕作地と居住地がセットで散在する14～15世紀の村の一部が明らかになりました。

(高橋保雄)

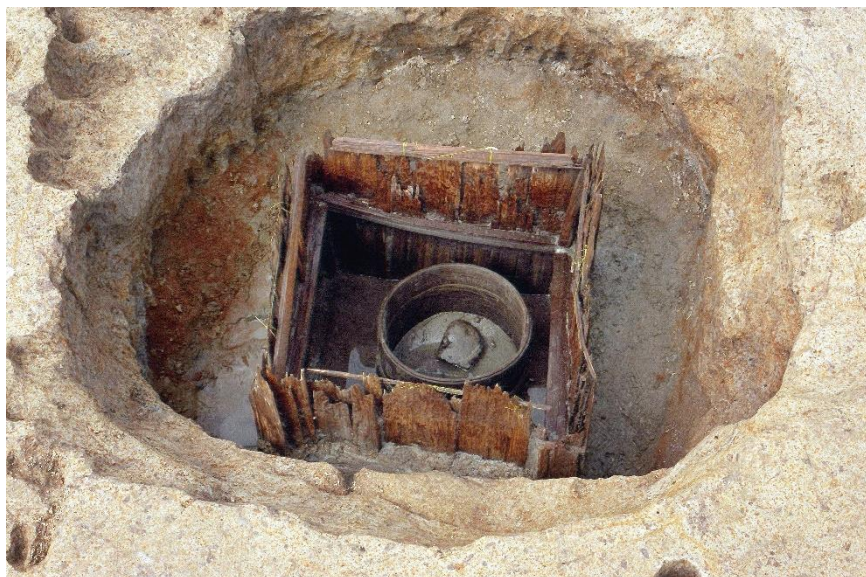


調査区全景

(第13回遺跡発掘調査報告会資料から抜粋)



凹地状遺構群の完掘状況



井戸（SE11）から出土した井戸側と曲げ物